

# JICA 中国事務所ニュース

(2007年9月号)

## 1. 最近のトピック

### (1) 草の根技術協力事業専門家－高見邦雄氏講演会開催

9月14日(金)、草の根技術協力事業専門家－高見邦雄氏の「黄土高原緑化協力の15年～無理解と失敗から相互理解と信頼～」を題する講演会が北京大学で開催されました。当講演会は関口グローバル研究会(SGRA)が主催したものです。

植林分野で活躍している日中のNGO団体、専門家方々、北京大学の学生たち約80人が同大学の生命科学学院の多目的ホールに集まって、当講演会に参加しました。当事務所では草の根技術協力の担当者、及びインターンが講演会に出席しました。

講演会において、高見氏は大同市の深刻な砂漠化と水危機を説明し、この15年間の植林事業が失敗続きからだんだん軌道に乗って、日本側の専門家や中国の技術者も参加し、最後は日中双方の関係者の協力によって「国際協力の貴重な成功例」をやり遂げたことを述べられました。参加者たちは大同市の水資源の厳しい状況を聞いて眉をしかめたり、高見氏の活動に感心したりしていました。講演後、30分程度の質問応答に入り、参加者から積極的な質問が出されました。当事務所からの参加者は高見氏の活動の支援機関の一つとして、参加者の皆さん、特に北京大学の学生方々に、JICAの概要、展開している事業の状況を説明しました。

高見氏は15年間中国山西省大同市の黄土高原で植林事業を行っており、素晴らしい成果を挙げています。2004年からJICAは草の根技術協力事業「黄土高原における森林再生事業」(パートナー型)により高見氏の活動を支援しています。これまで大同市において植樹造林、育苗などの面で



かなりの実質的な成果を上げており、技術移転や当該地域の人材育成などの面でも重要な役割を發揮してきました。この事業が去年で終了しましたが、高見氏

は今年からまた新しい草の根技術協力プロジェクト「太行山地区における多様性のある森林再生事業」(パートナー型)を立ち上げ、JICAも引き続き支援を行っており、今後更なる成果が期待されます。



### (2) JICA 草の根専門家 101歳の鼻地三郎博士の北京講演会及び映画試写会が開催されました!

9月18日午後、NPOアジア九州記者クラブ(草の根提案団体)の主催で、当事務所が後援機関として、元JICA草の根技術協力事業の専門家鼻地三郎博士の『95歳からの青春・100歳からが本番—101歳児・鼻地三郎博士の教育人生』をテーマとした講演会及び映画試写会が、日本国際交流基金北京事務所で行われました。在中国日本国大使館宮本雄二大使、JICA関係者及び各分野からの観衆約100人が出席しました。



鼻地博士は、日本で大変有名な養護学校である「しいのみ学園」の園長をされており、障害児教育のパイオ

ニアとも言えます。2002年から中国の知的障害児教育発展のための支援を開始し、2004年6月からはJICA草の根技術協力事業「知的障害児のための教育施設(特殊学級)の設立支援」プロジェクトを通じて、長春市解放大路小学校に特殊学級「しいのみクラス」を開校しました。このプロジェクトではこれまでのその経験を活かし、技術指導やセミナーの講師を務めました。

プロジェクト自体は既に終了しましたが、鼻地先生はその後も知的障害児や幼児教育の発展のために中国をはじめとする多くの国を訪れています。今回の講演も世界一周講演会の一環として行われたものです。冒頭今年の、宮本大使からの「私は、8歳の時にこの映画を見て大変感動しました。今中国は「共創融合」を目指しています。共創融合には、互いの優しい心・思いやりが大切です。映画「しいのみ学園」は、その優しい心を教えてください」という力強い励ましと期待の言葉に続き、鼻地先生はこれまで80年に渡る障害児教育の実践と理念について熱心に語られました。また、草の根技術協力プロジェクトの経験も紹介し、参加者の高い関心を集めました。

続いて鼻地三郎博士のしいのみ学園の創立時のエピソード、学園の活動の様子について描いた映画「しいのみ学園」が上映されました。この映画は、鼻



地博士をモデルとして1955年に撮影されたものであり、障害児を持つ男性が障害児の個性に応じて、個別化教育

の方法を打ち出し、子どもたちが気軽に楽しい雰囲気の中で、知識やスキルを学ぶようになるまでを当時の障害児に対する差別問題と合わせて描いたものです。聴衆の多くは映画の中で障害児が虐められたり、病気で亡くなったりなどのつらい場面で涙を浮かべており、会場は深い感動に包まれました。この映画が中国でも広く放映されることで、より多



くの中国の教育者が障害児教育に身を投じるようになり、中国のより多くの障害児が個別化

教育を受けることができるようになれば、と鼻地先生は望んでいます。

101歳になっても元気な鼻地先生は、会場の参加者に大きなエネルギーと励ましを与えました。皆は、「心をこめて教育すれば、どんな子どもの能力も最大限に発揮させることができる」ことを信じている鼻地三郎博士に感銘を受けました。

※ 鼻地先生の講演については、以下のブログに載っています。また、中国網でも大きく紹介されたので、ぜひご覧ください。

<http://blogs.yahoo.co.jp/shiinomi100/49486192.html>

[http://japanese.china.org.cn/life/txt/2007-09/20/content\\_8920269.htm](http://japanese.china.org.cn/life/txt/2007-09/20/content_8920269.htm)

### (3) 「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」 甘肅省での無料問診活動を実施

9月15日(土)～9月17日(月)に、「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」による甘肅省貧困地域での無料問診活動が行われました。

この同窓会は2006年8月に中国で初めて設立された帰国研修員の同窓会であり、これまで中日友好病院の関



係者をはじめとする医療分野の帰国研修員400名で構成されています。今回の無料問診活動は、同窓会の提案により初めて北京以外の西部貧困地域で行われたボランティア活動であり、「同窓会」理事会主要メンバー4名及び医師13名が北京、広州、銀川などから集まり、甘肅省第二人民医院及び天水市代第二人民医院において無料診断を行いました。当事務所からは藤本正也次長及び李瑾職員も参加しました。

この活動は甘肅省衛生庁、天水市衛生局の協力を得ており、両病院からも多くの医者、看護師などの積極的な参加がありました。地元の人々のボランティア活動に対する期待は大きく、午前8時半開始の診察であ

ったにも関わらず、午前8時から列を作って診察を待っていた程でした。今回無料診察を受けた患者は、この活動は自分達にとっても非常に有益であり、ぜひまたきてほしいと熱心に話していました。



同窓会のメンバーは無料問診以外にこれまで慢性病にかかりながらも経済的理由から診察を受けられな

かった貧困家庭5軒を訪問し、診察と5,000円相当の医薬品の贈呈、生活用品等の贈呈を行いました。訪問した貧困家庭には、高血圧、糖尿病、脳梗塞等のために、生活が困難な高齢者がおり、今回の無料診察及び医薬品提供に関しては「日本政府及び日本人民」に対して繰り返し感謝の意が述べられました。

甘粛省の両病院にとって今回の無料問診活動は同窓会の医者から勉強する絶好のチャンスでした。今後も



積極的に同窓会の医者とコンタクトしていきたいとの意向が表明されました。無料診断以外に病棟回診等の活動もあり、診断がつかない病気の診察等、非常に参考になり、今後の業務に非常に有益とのことでした。

今回のボランティア活動は中国側メディアからも注目を集め、甘粛省の「西部商報」、天水市の「天水市テレビ局」が取材に訪れました。うち「天水市テレビ局」では9月18日のニュース番組でこの活動が放送されました。

今回の活動の成功を通して、本同窓会としては貧困地域での無料診察活動を展開する意義が大きいと認識を深めており、今後も無料問診、病棟回診、医薬品の贈呈以外にも、健康診断、家庭医学資料配布、手術等様々な方法で活動を継続する方向を検討しています。

「相互理解班 李瑾」

## 2. 人の動き

### (1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(9月)

日中気象災害研究センタート中間評価  
(9/12-9/26)

農村養老保険制度整備調査団来日  
(8/27~9/16)

## 3. 9月の主要行事

第2次循環型経済現地国内研修(9/9-9/16)  
プロジェクトリーダー会議(全体会合)11/9

## 4. 専門家・ボランティアコーナー

### 西の果てから、こんにちは!

技術協力プロジェクト「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」は今年6月にスタートし、早3カ月が経ちました。

このプロジェクトの目標は、「モデル地区における天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両



モデル地区(昌吉市)の季節牧場

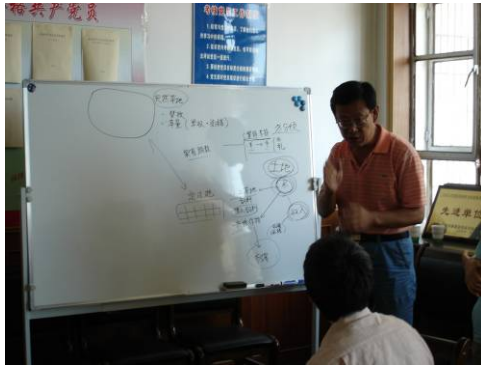
立しうる持続可能な定住事業のためのモデル的な取り組みを通じ、定住牧畜民に対する技術的支援体制が確立する」もので、具体的には、これまで遊牧していた牧民(カザフ族)が定住することによって、将来どのような経営を目指せば、生活が安定し、持続的な農牧業が営まれるのか、また同時に放牧先である季節牧場、特に植生劣化が著しい春秋冬牧場への放牧頭数がコントロールされ、植生が回復し、砂漠の進行・拡大を防ぐためにはどうするかを検証し、5年間かけてモデルを作り上げていくものです。

専門家の分野は、総括/草地管理、家畜飼養、栽培/飼料生産、研修計画/普及体制整備、水利用計画/管理、農家経営/市場調査と多種に亘っています。

今年度の活動は主に、モデル地区での天然草地保護利用計画、土地利用計画、水利用計画、営農計画、技術普及体制整備計画をカウンターパート(C/P:技術移

転先となる現地技術者)と共同作業で作成し、来年度以降からそれをパイロットプロジェクトとして実証していきます。

「C/P と共同作業」がこのプロジェクトのキーワードで、技術協力プロジェクトの目標は技術移転、つまり人材育成を行うことにあります。そして、プロジェクトの活動を通じて育成した人材が移転された技術を活用・応用して、地域社会に貢献してもらわな



C/P との意見交換

ければなりません。既に「共に考え、解決策を見出していく」ための会議が頻繁に行われるようになっていきます。日中双方の技術者が互いに尊敬・支持できるよう確かな力強い土台を築きつつあります。

新疆での活動はこのプロジェクトだけでなく、協力隊(2名、日本語教師)の他、民間の方々もいらっしゃいます。ALL JAPAN で、地元の人達に少しでも喜んでもらえればこれに越したことはありません。

最近、プロジェクト活動以外にも、地元のニーズが高いことから専門家がボランティアで日本語を教えることも始めたところです。専門家が教えることが出来る範囲だけで、会話中心です。そちらが本業よりも楽しいときもあります。

これから少しずつでも西の果てからの便りを皆さんに提供できればと思います。

(新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト：水利用計画)

## 6. その他のお知らせ

### 【訃報】

9月30日、当事務所の西村暢子所員が、休暇旅行中のチュニジアにおいて交通事故により逝去いたしました。逝去にあたり、関係機関の皆様からお香典、お悔やみ等をお送りいただき、大変感謝しております。当事務所といたしましても大変な痛手でございますが、これからも所員一同引き続き業務に邁進していく所存です。

この場をお借りしてお礼申し上げます。



\* 専門家、ボランティアの方々からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所 沈 晓 静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) へてにお願いいたします。